

## クラゲ対策の実施状況について

### 1 要旨・目的

県東部海域におけるミズクラゲ（以下「クラゲ」という）の漁業被害を軽減することを目的に、クラゲの発生状況を漁業者から情報収集し、この情報を基にした駆除方法の試験に取り組むとともに、発生源となるポリプの生息実態調査の手法や、対策の方向性を検討する「クラゲ被害対策事業」の取組状況を報告する。

※ ポリプとは、卵から発生したクラゲの幼体が構造物などに付着した形態をいい、その後分裂・増殖して春にクラゲとなる。

### 2 現状・背景

県東部海域で操業する小型底びき網業者3名と小型定置網業者7名から、クラゲの入網量の情報を収集している。小型底びき網漁業においては、4月17日からクラゲの入網が確認されたものの、現時点では操業への影響はほとんどない。一方、小型定置網漁業においては、4月4日から入網が確認され、4月10日から徐々に操業に支障が出る状況となり、4月下旬からはその影響が次第に大きくなっている（5月8日現在の情報）。

### 3 事業の概要

#### (1) 対象者

福山地区漁業者（小型底びき網106経営体、小型定置網37経営体等）を中心とした県東部海域の中小漁船漁業者

#### (2) 実施状況と今後の予定

##### ア クラゲ発生情報を基にした駆除方法の試験

発生状況をリアルタイムに把握するため、クラゲ情報共有システムを4月から運用開始した（図1）。この情報を基に、漁協が効果的な駆除が行えると判断された時期と海域において、延べ45隻（15業者、3回）のクラゲ切断機を備え付けた小型底びき網漁船による駆除試験を予定している（図2）。

また、ノリ刈り取り船を用いて、定置網に入ったクラゲを吸い上げ、切断し、海に戻す駆除試験も予定している（1隻、1回）。

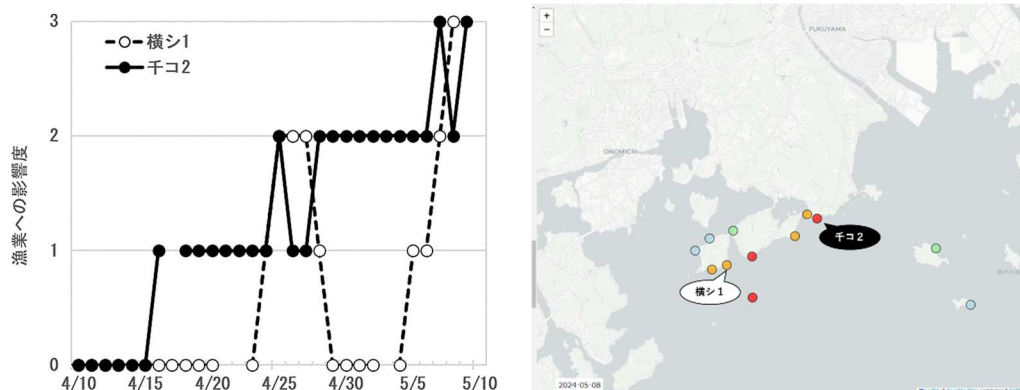


図1 定置網のクラゲ入網量についての情報共有システムから得られる情報  
地図中の○印は定置網の場所を示し、赤くなる程被害が大きい状態を示す。



図2 小型底びき網に入ったクラゲ【昨年度の写真】(左) と、クラゲ切断機(右)  
クラゲを船体に備え付けた切断機で切断して海に返すことで、駆除する。

#### イ ポリプの生息実態調査の手法や対策の方向性の検討

クラゲの発生源となっているポリプ対策については、潜水調査が可能な委託業者と契約し、大学の専門家らに助言をいただきながら、広島県に適した調査手法の検討を行う。また、東部海域における効果的な駆除を行うための手法についても、専門家らに助言を受けながら検討する。

### (3) スケジュール

#### ア クラゲ発生情報を基にした駆除方法の試験

- ・ 小型底びき網による駆除 : 5～9月のうち3日間
- ・ ノリ刈り取り船による小型定置網における駆除 : 5～6月のうち1日

#### イ ポリプの生息実態調査の手法や対策の方向性の検討

- ・ 委託業者による調査方法の検討 : 8月中下旬～3月上旬
- ・ 専門家らとの駆除方法の検討 : 9月中旬～3月上旬

### (4) 予算(単県)

9,000 千円